

認知症サポーター養成講座・認知症カフェの実施報告

藤 本 聡*・長谷川 裕・澁 井 実・
増 田 雄 亮・貝 淵 正 人・栗 原 トヨ子

新潟リハビリテーション大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

〔受付：令和元（2019）年8月30日〕

〔受理：令和元（2019）年9月10日〕

キーワード：認知症サポーター，認知症カフェ，社会貢献，大学教育

はじめに

新潟リハビリテーション大学では、2017年（平成29年）6月に認知症サポーター養成講座を開催して、7月より認知症カフェ「リハ大オレンジカフェ」（以下、カフェ）を月1回の頻度で開催して、早いもので約2年間が経過した。これまでの活動について報告する。

活動を始めた経緯

筆頭著者は前職の精神科病院の勤務時に、認知症初期集中支援チーム（以下、チーム）の一員として、認知症の方の自立生活のサポートを行う活動を行っていた。その時に、身近に認知症の方が多く、社会問題となっていることを身をもって理解することができた。例えば、認知症を発症した一人暮らしの方が、煙草が原因で、自宅を全焼してしまい、納屋の軒先の壁のない場所で生活をしていた。納屋はゴミ屋敷となっていて住める状態ではなかった。民生委員より地域包括支援センターに情報提供があり、地域包括支援センター

と一緒にチームが介入した。初めて対象者の方の自宅を訪問したのが、10月頃で東北地域であるため、これから寒くなると、生活が困難になる可能性があった。チームが介入することにより、家族の協力が得られて、納屋を住める状態にして、介護保険に繋がられ、デイサービスを利用できるようになり、食事や入浴の提供が受けられるようになった。そのような経験より、現職の大学に勤務してからも、認知症に関する地域に役立つ取り組みで、大学でもできることを考えて、認知症サポーター養成講座とカフェを立ち上げ、大学の作業療法学専攻の教員と共に運営している。国の政策である認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）¹⁾では、認知症初期集中支援チームとともに、認知症サポーターの養成と、認知症カフェの設置の促進が含まれている。

認知症サポーター養成講座

国は政策として、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる

* Corresponding author:

新潟リハビリテーション大学

〒958-0053 新潟県村上市上の山2-16

Tel: 0254-56-8292

Fax: 0254-56-8291

E-mail: fujimoto.s@nur.ac.jp

範囲で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいる²⁾と述べている。本学でも、認知症サポーター養成講座を実施することで、地域住民の方に参加していただき、認知症サポーターになっていただくと同時に、学生も受講することで、学生が認知症サポーターになるとともに、認知症の施策と認知症サポーター養成講座の実施方法について学ぶ機会となっている。

認知症サポーター養成講座は、大学の教員の他に、新潟県作業療法士会村上支部の方にも協力していただき、1年に1度の頻度で開催している。第一回目の2017年6月は、地域住民51名が参加し、新聞社（岩船新聞）が取材に来てくれ、スタッフとして新潟県作業療法士会村上支部の12名、学生は6名が参加した。第2回目は、2018年10月にカフェの参加者を対象に24名が参加し、スタッフとして新潟県作業療法士会村上支部の1名、学生は9名が参加した。今年も、カフェの参加者と学生を対象として、10月に実施する予定である。

認知症カフェ

カフェは、月に1度の頻度で、1回が2時間程度、内容は毎回変えている。内容としては、エコクラフトでコースター作り、村上市に関するクイズ、マンダラ塗り絵（脳トレ）、合唱、ミサンガ作り、押し花作り、手話サークルの学生による手話、学生によるレクリエーション等を行っている。開始より30分間は、歓談の時間をとり、利用者様同士や利用者様と大学スタッフとの情報交換と、仲間づくりの時間としている。また、活動の最後には、歌に合わせた体操や村上市内の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が協力して村上市が制作した村上体操を行っている。

今までカフェは、2019年8月で25回開催することができた。参加人数は、地域住民の延べ人数で547名、平均で約23名であった。最初の6回は、参加人数が少なく、平均で約13名で、一番少ないときには6名であり、継続が危ぶまれた時期もあった。しかし、2年が経過して最近6ヶ月間（3月～8月）では、平均で約30名の方に参加していただいている。増えた要因としては、村上市報の日程に、他のカフェと同様に掲載していただいたことと、口コミで増えたと考えられる。学生は延べ人数で41名が参加した。

新オレンジプランでは、「認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する」¹⁾とある。リハ大オレンジカフェの参加者は、主に認知症予防のためと友人との交流、楽しみのために、参加されているが、中には、認知症が疑われる人も参加しており、お互いを理解し合う機会になっていると考える。大学生にとっても、認知症カフェに参加することにより、認知症の理解と、認知カフェの運営方法、認知症に関する施策や認知症予防について、学ぶ大変良い場になっている。

今後に向けて

本学において、認知症サポーター養成講座と認知症カフェを開催することは、地域住民の認知症サポーター養成と、認知症カフェの役割としての社会貢献の他に、学生の教育の場としても、意義があると考えている。今後も、リハ大オレンジカフェを楽しみにしていただいている人のためにも、長く継続していきたいと考えている。



写真1 認知症サポーター養成講座（認知症とは）



写真2 認知症サポーター養成講座（寸劇）

文献

1) 厚生労働省：認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）（概要），
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000->

Roukenkyoku/0000079008.pdf

2) 厚生労働省：認知症サポーター，<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089508.html>



写真3 手話サークルによる手話のクイズ



写真4 エコクラフトでコースター作り



写真5 笹川流れの塗り絵



写真6 ボランティアの方による手話講座



写真7 学生によるボーリング



写真8 学生によるクイズ



写真9 歓談の時間（地域住民と学生・教員）



写真10 活動最後の体操

